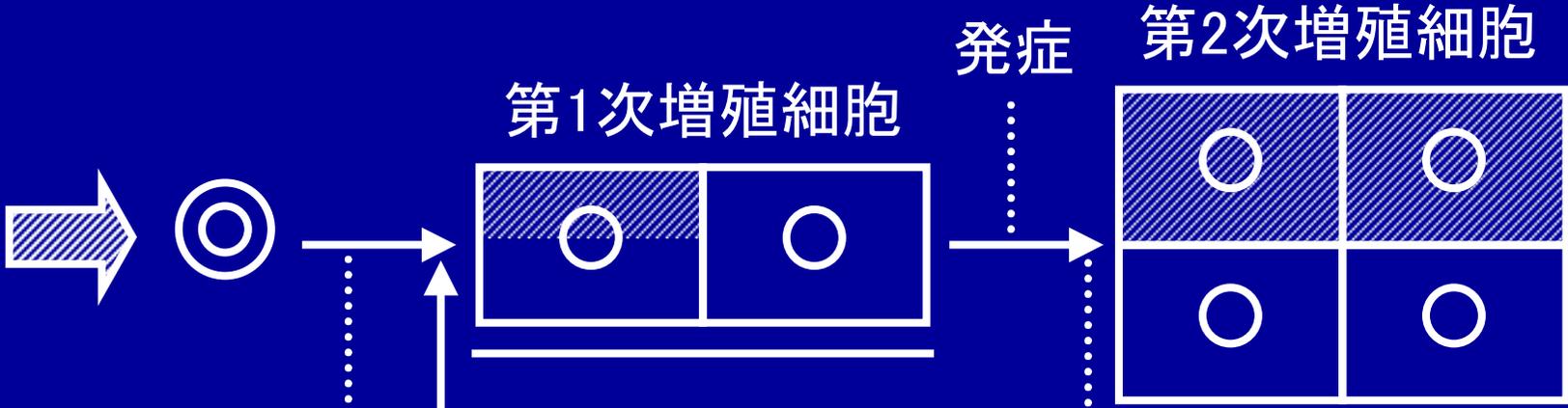


感染発症機序

ウイルスはどこから体内に入りどのような病気を起こすか？

媒介物
(ヒト、動物、食品、水、その他)



- ヒトへの侵入
- ① 吸入 (エアロゾル、飛沫)
 - ② 飲食 (経口:食品、水)
 - ③ 咬、刺(蚊、ダニ等)、針刺し
 - ④ 接触 (粘膜:汚染物、血液)

- 治療薬剤
- ① 治癒、後遺症
 - ② 死亡
 - ③ a. 持続感染
b. 潜伏感染

20世紀から21世紀に持ち越された課題

1. 新興・再興感染症 (Emerging & Re-Emerging Inf. Dis.)

1) ウイルス性出血熱 (エボラ、ラッサ、CCHF他)

2) 食品・水由来感染症 (ロタ、ノロウイルス等による下痢症)

3) 血液由来感染症 (HIV、HCV)

➡ 4) 新しい型のインフルエンザ (H5N1) 1997, 2004

5) 結核・その他 (多剤耐性)

➡ 6) 新しい感染症の出現—SARS 2003, 2004

2. 人獣共通感染症:

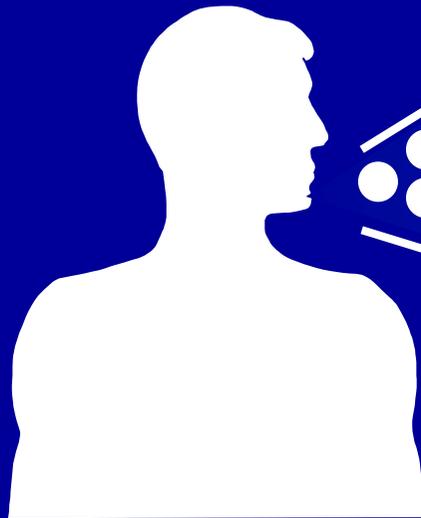
➡ プリオン病 (vCJD 1996)、ウエストナイル熱 1999～、
ニパウイルス感染症 1998、Monkeypox、狂犬病宿主の拡大

3. 移植にともなうウイルス感染症: 同種・異種移植

4. バイオテロ・生物兵器への対応

飛沫とエアロゾル (Droplets and Aerosol) どう違うか？

咳が出て熱がある
人にマスクをつけ
させる



エアロゾル
Small particle
aerosol
2~8 μ m径
空気の状態
により浮遊
期間が長く
なる

飛沫
Droplets

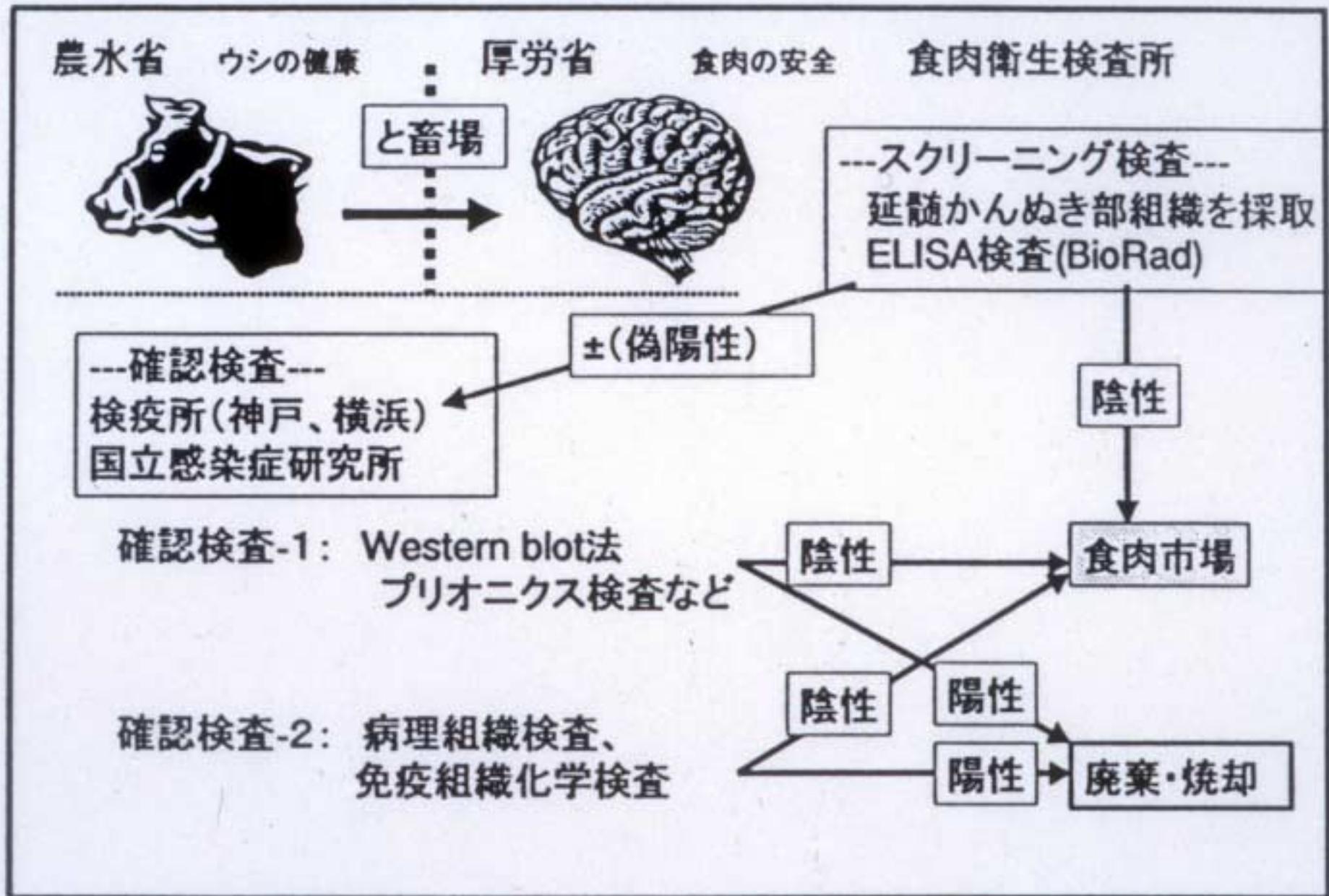
SARS:飛沫になりやすい
インフルエンザ:エアロゾルになりやすい

エアロゾルが飛散する範囲は温
度、湿度、換気状態等が変わる

距離→

~90cm

我が国のBSE検査体制



日本、EU、米国のBSE対策

	日本	EU	米国
特定危険部位除去	全ての月齢	12ヶ月齢以上	30ヶ月齢以上
検査体制	全ての月齢 100%検査	24～30ヶ月齢 以上	30ヶ月齢以上 0.1%